

## 4年

早いもので、4年生として過ごす日々も残りわずかとなりました。

この一年を振り返ると、子供たちの心と体の大きな成長を感じます。

例えば、自分のことだけでなく周りの友達のことを考えて動ける場面がたくさん増えました。

休み時間には、「どうすればみんなで楽しく遊べるかな？」と友達と相談してルールを決められるようになりました。ときには、意見が分かれるときもあります。そのときは、「なるほど、そういう考えもあるね」と友達の気持ちを受け止めようとする姿も見られるようになりました。また、授業中でも、友達の発表を聞いて「いいところに気付いたね」と学び合う温かい雰囲気が広がっています。誰かと関わりながら学ぶ中で、少しずつ視野が広がり、周囲への優しさが育っているようです。

他にも、子供たち一人一人が、自分の成長に自信をもち、さらに高まろうとする姿がたくさん増えました。体育科の時間には、「先生、二重跳びができるようになったよ」「やった！跳び箱の六段が跳べた！」と嬉しそうに報告してくれる声も聞かれ、できることが増えることの喜びを味わう様子を何度も目の当たりにしてきました。そして、そのような経験をした子供たちは、「次は、〇〇をしよう」と新たな目標を立て、さらによりよくなるようとしています。

4月からはよいよ高学年の仲間入りです。学校の中心となって活躍していく子供たちの姿が、今からとても楽しみです。

この一年間、温かく見守り支えていただき、ありがとうございました。



## 6年

3月4日（火）に、「卒業を祝う集会」がありました。在校生が6年生のためにメダルや招待状をつくったり、歌やダンスを披露したりしました。たくさんの「ありがとう」を受け取った6年生の表情はとても喜びに満ち溢れていました。そのような中、6年生は全校に感謝の気持ちを伝え、会場のみみんなで愉しむことができるように「ダンスホール」の合奏をしました。

この活動に向けて、努力している子供がいました。1人目は、木琴を担当していたAさんです。初めて木琴に挑戦するというので、誰よりも早くリズムを覚え練習し、友達に教えていました。なぜこんながんばれたのかを聞くと、「初めて挑戦することだから特にならなりたいと思った」と言っていました。2人目は、鍵盤ハーモニカを担当していたBさんです。Bさんは、楽譜をもらってからすぐに練習を始め、3日後には楽譜を見ずに演奏できるようになっていました。「ここまで弾けるようになったよ」と聴かせてくれたり、リズムをとりながら愉しく練習したりしていました。3人目は、リコーダーを担当していたCさんです。マイタイムや休み時間、給食を食べ終わった後など、とにかく時間を見つけて人一倍練習していました。

集会の合奏が終わった後、この3人が特に「楽しかった」と話してくれました。それを受け、担任から「努力」が「自信」となり、心から湧き出る「楽しさ」につ

ながったのかなという話をしました。勉強、部活、習い事等、例え苦手なことでも努力すれば、それが自信につながり、きっと楽しいと思える日がくる。このことを中学生になっても忘れないでほしいと思いました。

もうすぐ卒業式です。残り少ない日数ですが、卒業式では、在校生や先生方、地域の方や保護者の方、全ての方に感謝の気持ちと感動を届けられるよう、みんなで突き進んでいきたいと思っています。

